純粋種豚の能力に関する目標数値（全国平均）

	品　種	繁殖能力		産肉能力			
		１腹当たり育成頭数	１腹当たり子豚総体重	飼料要求率	１日平均増体量	ロース芯の太さ	背脂肪層の厚さ
		頭	kg		g	㎠	㎝
現　在	バークシャー	8.7	47	3.3	710	28	2.2
	ランドレース	9.9	63	3.0	800	35	1.7
	大ヨークシャー	10.0	62	3.0	800	35	1.7
	デュロック	8.9	48	3.1	870	41	1.7
目　標（平成32年度）	バークシャー	9.2	52	3.2	750	32	2.2
	ランドレース	10.8	68	2.9	900	35	1.7
	大ヨークシャー	10.9	69	2.9	910	35	1.7
	デュロック	9.4	53	2.9	1,000	41	1.7

注１：繁殖能力の数値は、分娩後３週齢時の母豚１頭当たりのものである。

注２：産肉能力の数値（飼料要求率を除く。）は、雄豚の産肉能力検定（現場直接検定）のものである。

注３：飼料要求率は、体重１kgを増加させるために必要な飼料量であり、次の式により算出される。

$$飼料要求率＝\frac{飼料摂取量}{増体量}$$

注４：飼料要求率及び１日平均増体量の数値は、体重30kgから105kgまでの間のものである。

注５：ロース芯の太さ及び背脂肪層の厚さは、体重105kg到達時における体長２分の１部位のものである。

（参考）肥育もと豚生産用母豚の能力に関する数値（全国平均）

	１腹当たり生産頭数	育成率	年間分娩回数	１腹当たり年間離乳頭数
	頭	%	回	頭
現　在	10.5	89	2.2	20.6
目　標（平成32年度）	11.0	95	2.3	24.0

注：育成率及び１腹当たり年間離乳頭数は、分娩後３週齢時のものである。

（参考）肥育豚の能力に関する数値（全国平均）

	出荷日齢	出荷体重	飼料要求率
	日	kg	
現　在	195	112	3.0
目　標（平成32年度）	183	113	2.9

⑷　体形に関する改良目標

能力の向上を支えるため、強健で肢蹄が強く、発育に応じて体各部の均称がとれ、供用年数が長く飼養管理の容易なものとする。また、肢蹄の強さについては簡易で数値化された実用的な評価手法の確立・普及を図るものとする。

⑸　能力向上に資する取組

①　純粋種豚の維持・確保

多様な消費・流通ニーズに応えた、肥育豚生産の基となる育種素材として多様な特性を有する純粋種豚の数が減少しており、その維持・確保及び育種実施機関等への安定供給のための体制整備・強化に努めるものとする。

②　改良手法

能力及び斉一性の高い系統及び優良種豚群の造成を図るため、独立行政法人家畜改良センター、都道府県、民間の種豚生産者等の各関係者の広域的な連携、所有している遺伝資源に関するデータベース化や情報交換等による効率的な改良を進めることとする。

また、能力検定の実施と遺伝的能力評価に基づく種豚の選抜及び利用のさらなる推進を図るとともに、人工授精、受精卵移植、ＤＮＡ解析等新技術の利用に努めるものとする。

③　飼養管理

消費者に安全で信頼される豚肉生産を確保していくため、ＨＡＣＣＰ方式やオールイン・オールアウト（注１）の導入等の衛生対策の推進が重要である。

また、飼養豚に遺伝的能力を十分発揮させ生産性を向上させるため、飼料設計の改善及び適切な飼養スペースや豚舎の環境等豚の快適性に配慮した飼養管理（アニマルウェルフェア）の推進が重要である。

さらに、特長ある豚肉生産や一層の生産コストの低減を図るため、エコフィード（注２）や飼料用米の利用促進に努めるものとする。

肥育豚の飼養管理に当たっては、品種等の特性に応じた効率的な肥育により適正な日齢及び体重での出荷に努めるものとする。

注１：オールイン・オールアウト

豚の収容施設を空にして、新たな豚群を一度に導入して一定期間飼養し、一度に出荷する方式。豚群の出荷の度に、収容施設の水洗・消毒・乾燥を徹底することで病原体が減少し、豚群の健康維持、事故率低減及び生産性向上を図る。

注２：エコフィード（ecofeed）

「環境に優しい（ecological）」や「節約する（economical）」等を意味するエコ（eco）と飼料（feed）を併せた造語で、食品製造副産物等の食品循環資源を原料に加工処理されたリサイクル飼料。

④　おいしさに関する指標

消費者ニーズに応じた肉質の改良を進めるため、おいしさに関する数値指標の検討及びその簡易な分析手法の確立を図るものとする。

２　増殖目標

豚肉の需給動向に即した生産を行うことを旨をして、飼養頭数の総数は919万頭（現在990万頭）とする。

（参考）豚をめぐる情勢

１　豚をめぐる情勢

我が国の養豚は、食生活の多様化・高度化に伴い食肉需要が堅調な伸びを示す中、食肉の中で最も消費量が多く、重要なたんぱく質供給源である豚肉を供給するとともに、流通・加工及び販売業者も含め裾野の広い産業として発展してきた。